



NEDO航空・宇宙部の取組

2026年3月6日

国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構

航空・宇宙部 統括課 兼 次世代空モビリティユニット

主任 神田 晃佑

目次

- 1. NEDO航空・宇宙部の概要**
- 2. 福島県とNEDO航空・宇宙部の関係**
- 3. 福島県とNEDO航空・宇宙部のこれから**

目次

- 1. NEDO航空・宇宙部の概要**
2. 福島県とNEDO航空・宇宙部の関係
3. 福島県とNEDO航空・宇宙部のこれから

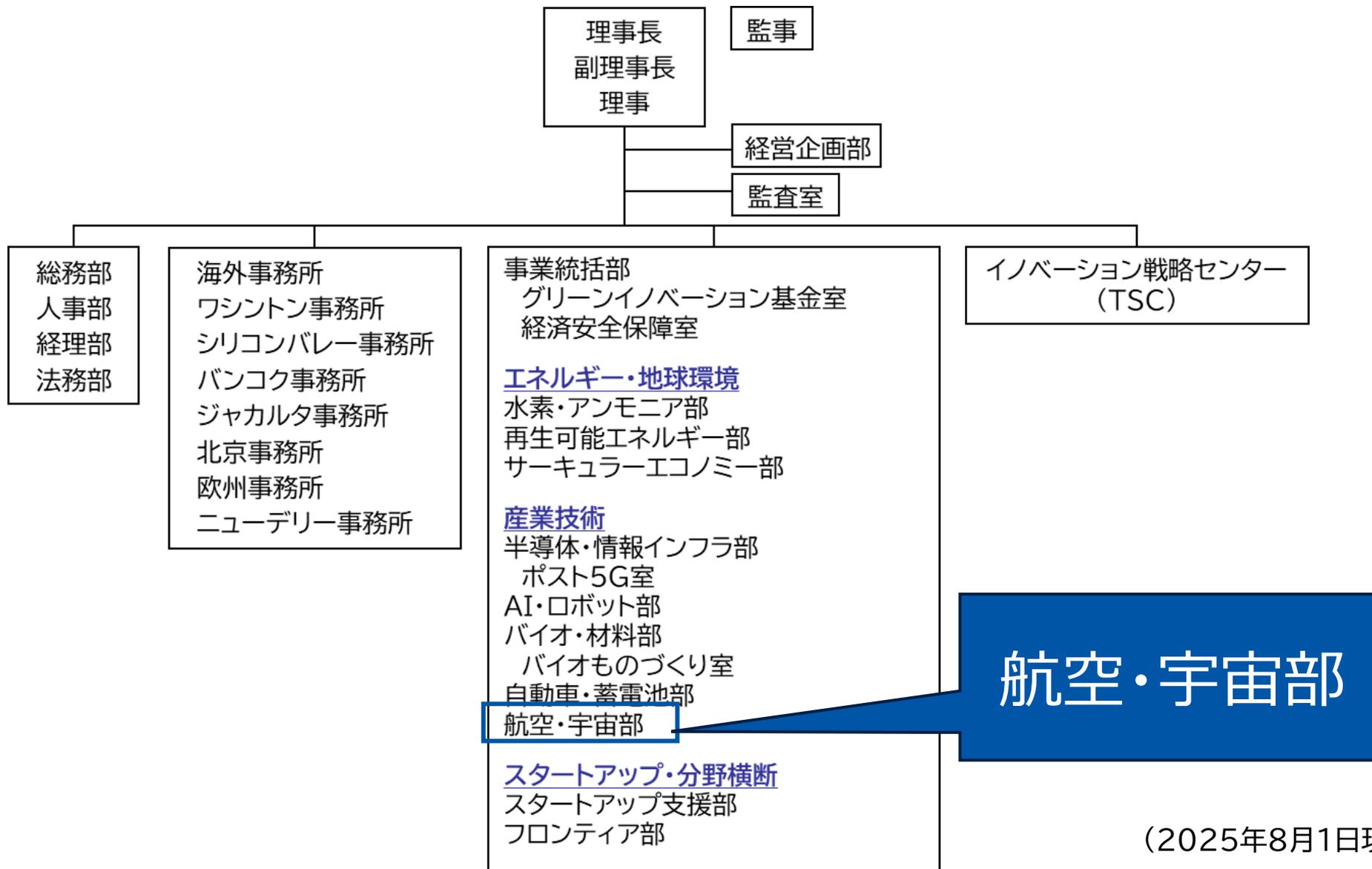
NEDOの役割

イノベーション・アクセラレーターとしてのNEDOの役割

技術戦略の策定、プロジェクトの企画・立案を行い、プロジェクトマネジメントとして、産学官の強みを結集した体制構築や運営、評価、資金配分等を通じて技術開発を推進し、成果の社会実装を促進することで、社会課題の解決を目指します。

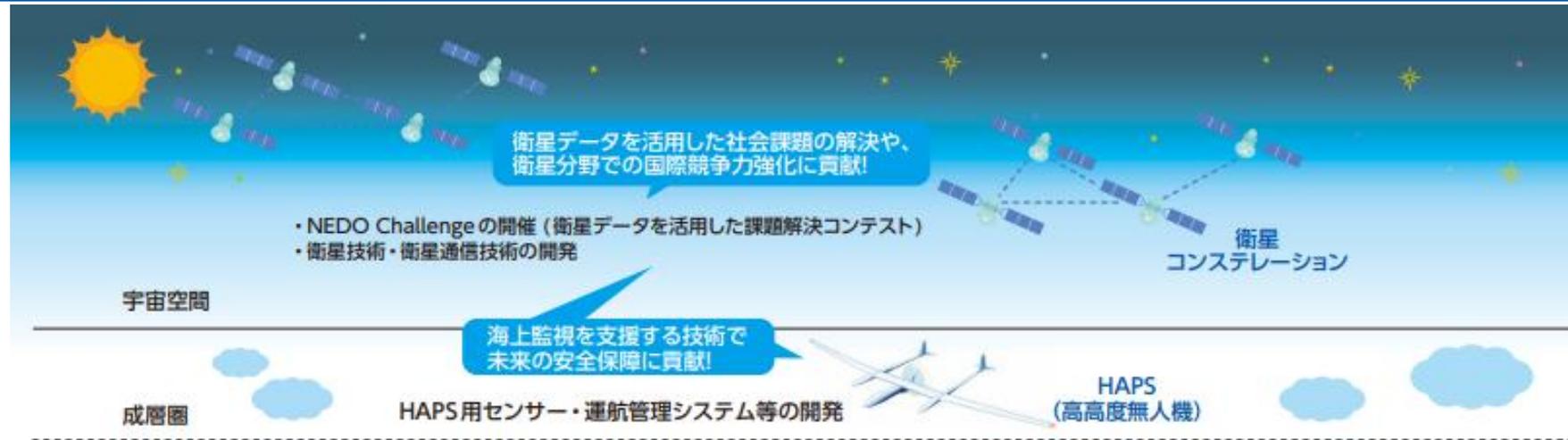


NEDOの組織



(2025年8月1日現在)

航空・宇宙部の所管分野



衛星



航空機

次世代
空モビリティ

ReAMoプロジェクト



Duration

5 Years

FY2022 to FY2026



Total Budget

¥15B



Partners

42



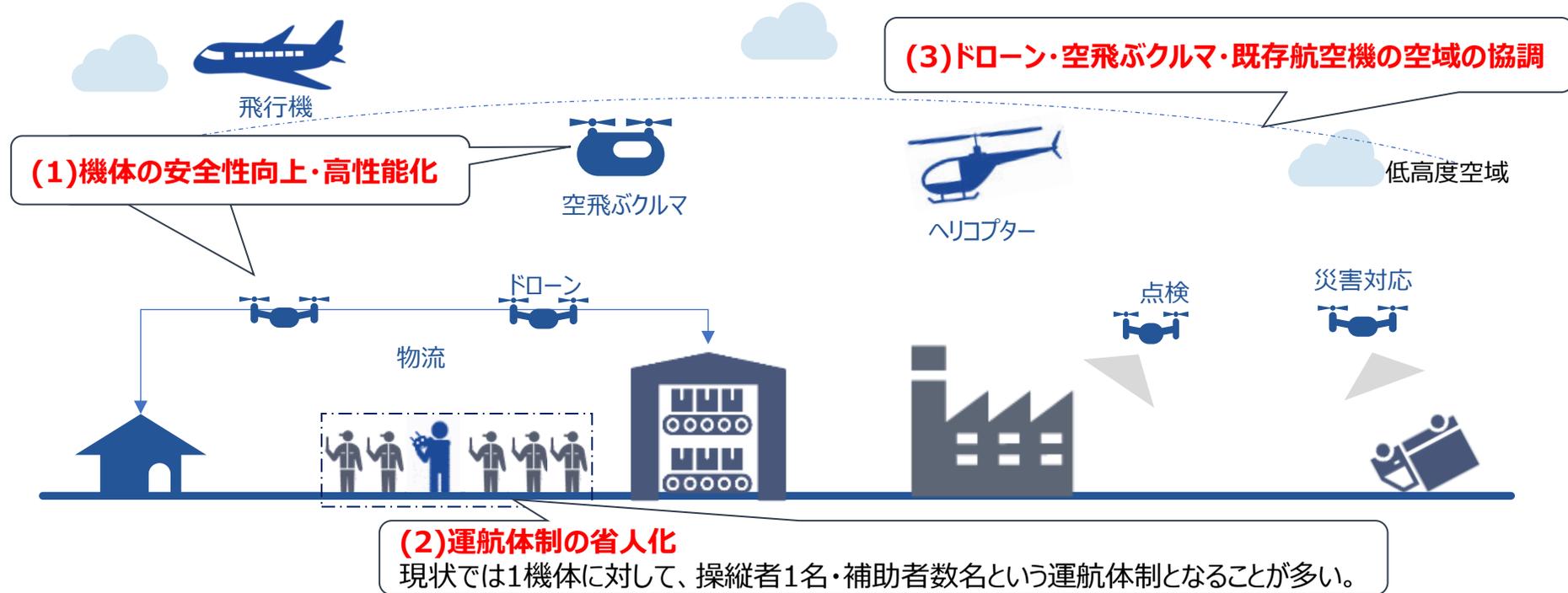
R&D Items

9

ReAMoプロジェクト概要

今後の産業拡大を見据え、

- (1) **試験方法の標準化**や産業規格化により、「**機体の安全性向上・高性能化**」を進め、ドローンの活用の幅を拡大し、空飛ぶクルマの市場を創造する。
- (2) 「**運航体制の省人化**」によって1人の操縦者が複数の機体を操縦できるようにし、ドローン利活用のポテンシャルをさらに引き出す。
- (3) また、空飛ぶクルマが登場することも見据え、**ドローンと空飛ぶクルマ、既存航空機が空域を協調**し、より安全で効率的な航行を行うための技術の確立を目指す。



研究開発項目①「性能評価手法の開発」

(1) ドローンの性能評価手法の開発

(2) 空飛ぶクルマの性能評価手法の開発

(3) ドローンの1対多運航を実現する適合性証明手法の開発

(4) ドローンの1対多運航を実現する機体・システムの要素技術開発

研究開発項目②「運航管理技術の開発」

ドローン・空飛ぶクルマ・既存航空機がより安全で効率的な飛行を実現できる研究開発

【研究開発要素】

(A) 運航管理システム・衝突回避技術の開発

(B) エコシステム構築に向けたオペレーション検証

(C) 自動・自律飛行、高密度化に向けた技術開発

調査項目①

「海外制度・国際標準化
動向調査」

調査項目②

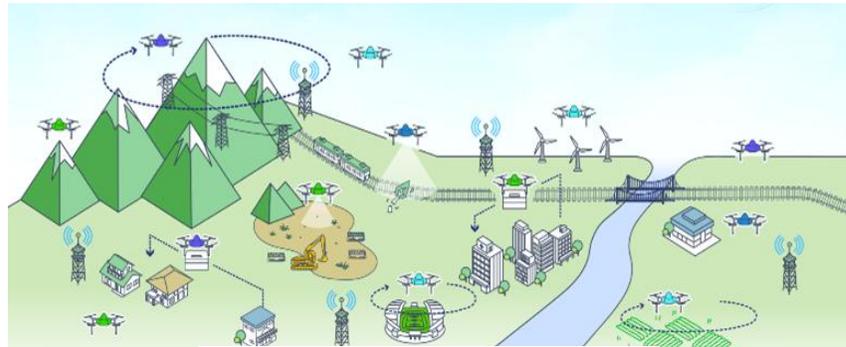
「全体アーキテクチャ・
要素技術調査」

調査項目③

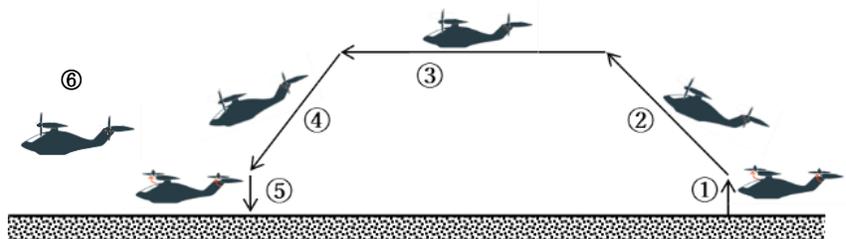
「国内外への成果発信」

空飛ぶクルマの性能評価手法の開発

電動推進システム環境試験技術における試験設備構築・実証・国際標準化提案を通し、国内にノウハウを蓄積



AAM Social Implementation

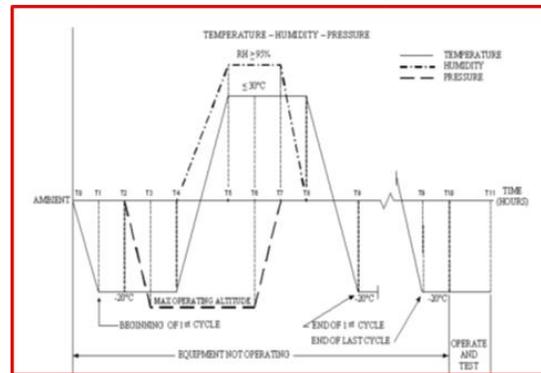


Anticipated flight profile mission

① 国際標準化団体調査

国際動向を見すえた上で環境試験手法（試験手順・設備仕様）策定

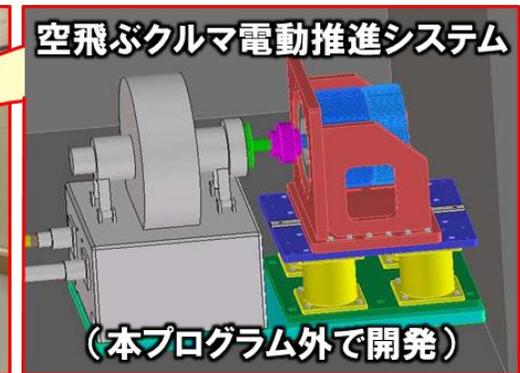
② 環境試験手順策定



③ 環境試験設備整備



④ 実証試験



⑤ 国際標準提案



AE-7, AE-10 SC-135
(予定する提案先)

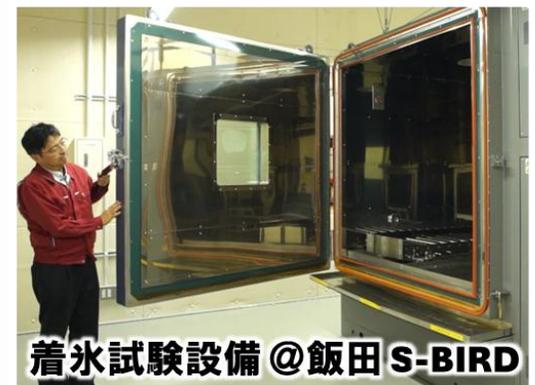
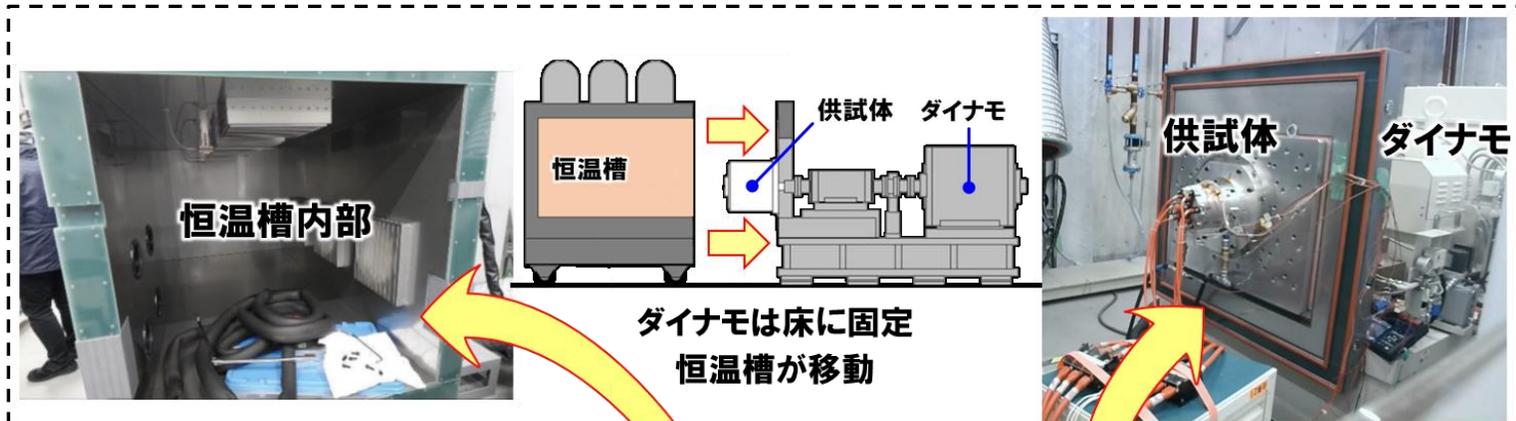
空飛ぶクルマ国内産業の振興に貢献

⑥ 基盤技術蓄積 / 情報開示

国内関連企業

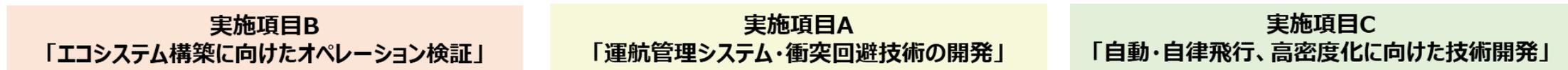
(主要成果) 福島RTFに試験設備新設

2025年2月温度評価試験設備完成・試験開始、追加機能開発中

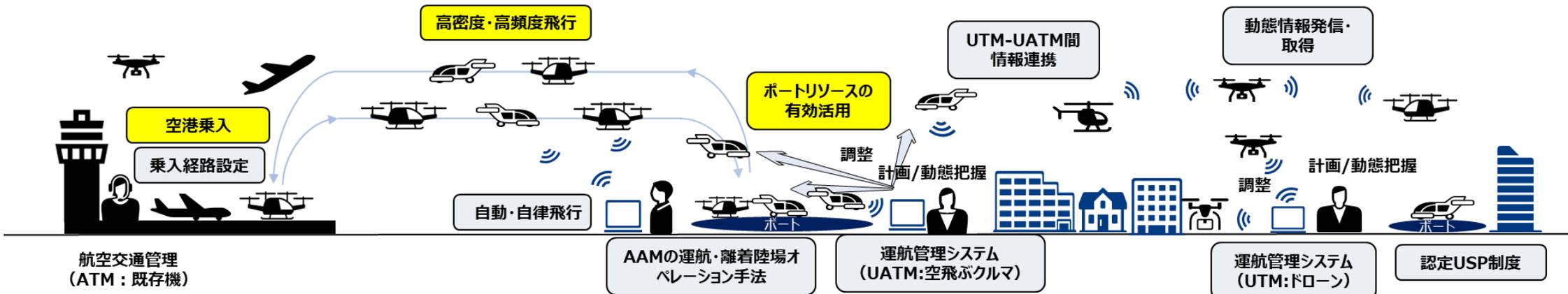
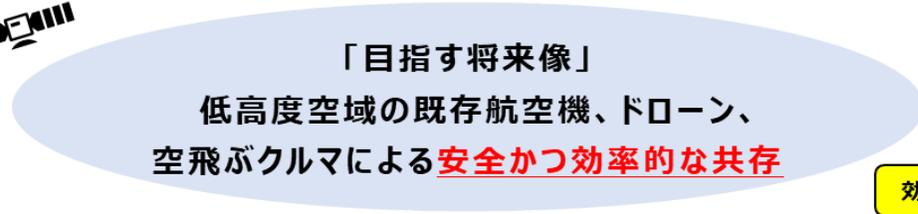
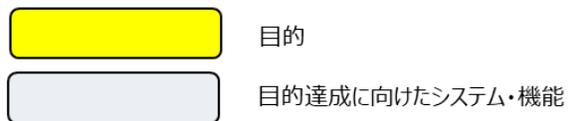


運航管理技術の開発

低高度空域における既存航空機、ドローン、空飛ぶクルマの安全かつ効率的な共存



低高度空域の運用概念図

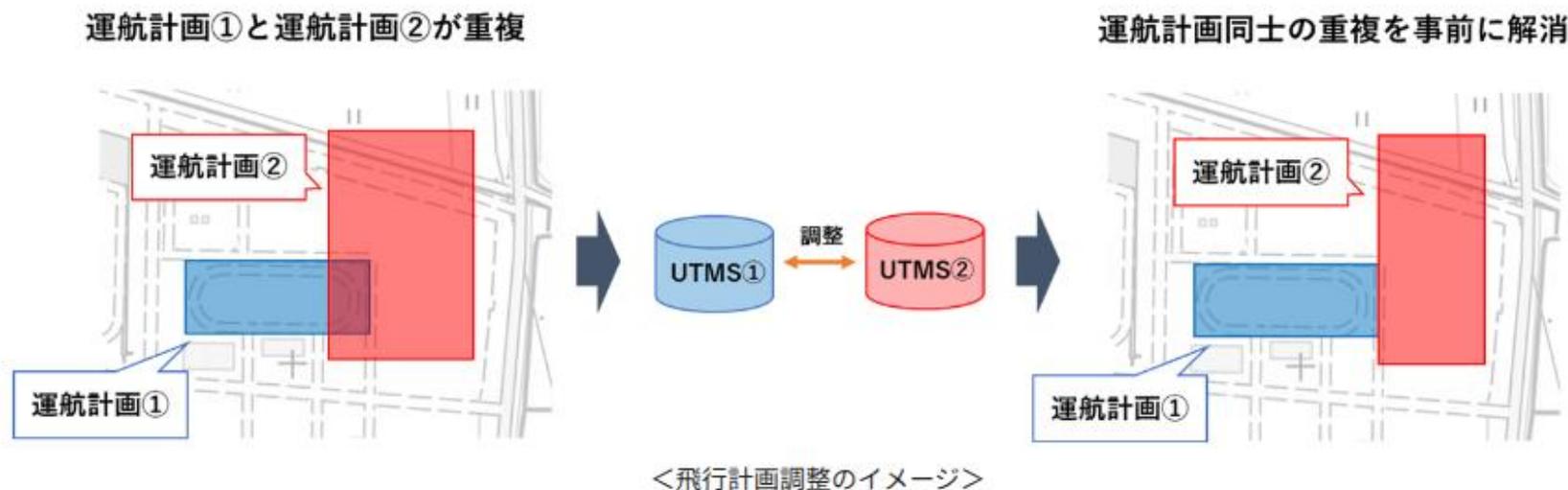


略語 AAM : Advanced Air Mobility UATM : Urban Aircraft Traffic Management
 UTM : Unmanned Aerial System Traffic Management USP : UTM Service Provider

(主要成果) 福島RTFにおける運航管理技術実証

複数の運航管理システムが連携し、ドローン同士の衝突を回避する基盤構築実証に成功 2025年2月福島RTFにて実証

- UTMS間での**飛行実態の把握**、**国際標準フォーマットに準拠した空域情報の共有**など、機能面の正確性を確認
- 複数UTMS間での**重複する飛行計画の相互調整**やUTMSを利用しないドローン運航者とのデジタルツールによる情報共有の有効性を確認



目次

1. NEDO航空・宇宙部の概要
- 2. 福島県とNEDO航空・宇宙部の関係**
3. 福島県とNEDO航空・宇宙部のこれから

福島県・南相馬市との連携協定

福島RTFや実証区域を積極的に活用することで、人材育成、関連産業の活性化、さらには地域振興に資する取組を推進することを目的とし、**福島県、南相馬市それぞれと連携協定を締結**。協定に基づき、密な連携体制を構築。



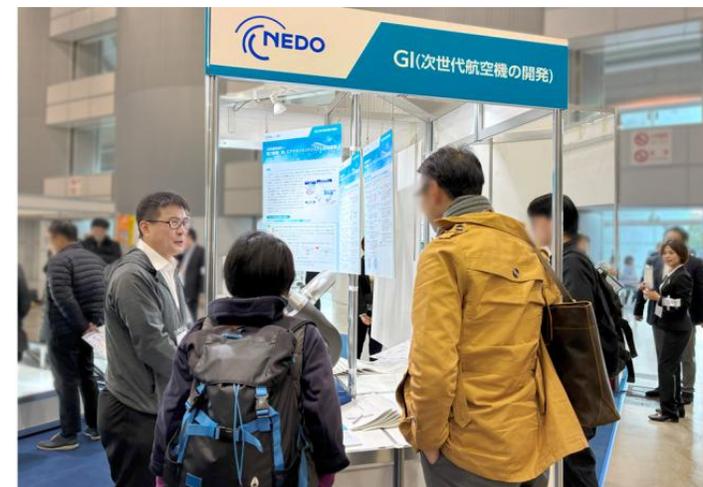
福島県と協定を締結(2017年11月)



南相馬市と協定を締結(2019年4月)

ロボット・航空宇宙フェスタふくしまへの出展

2025年の展示ブースでは、「空のイマを変えるNEDO～空の新時代 その未来を支える挑戦～」をテーマに、航空・宇宙部事業に関する成果の展示やドローン操縦体験コーナーなどを設け、航空機関連産業の技術や取組を紹介。



「ロボット・航空宇宙フェスタふくしま 2025」出展の様子

目次

1. NEDO航空・宇宙部の概要
2. 福島県とNEDO航空・宇宙部の関係
- 3. 福島県とNEDO航空・宇宙部のこれから**

NEDO内福島勉強会 概要

- ・目的：福島イノベーションコースト構想をはじめとした復興に係る政策の最前線での取組や、進出事業者の生の声に触れることで福島浜通り地域の理解を深める。また、NEDOの研究成果を実証・実装する場として福島県の可能性を考える。
 - ・日程：2月中に2回開催。NEDO職員約70名が参加。
 - ・訪問先例：東京電力廃炉資料館、東京電力福島第一原子力発電所、とみおかアーカイブミュージアム、福島RDM²センター、大熊インキュベーションセンター、福島ロボットテストフィールド、南相馬市産業創造センター等。そのほか、現地機関や企業との意見交換会も実施。
- 協力機関：福島イノベーション・コースト構想推進機構、福島相双復興推進機構、福島国際研究教育機構（F-REI）、経済産業省大臣官房福島復興推進グループ

NEDO内福島勉強会 当日の様子



福島第一原子力発電所



とみおかアーカイブミュージアム



大熊インキュベーションセンター



福島ロボットテストフィールド



福島RDM²センター

福島県とNEDO航空・宇宙部のこれから

- ・NEDOは、プロジェクトマネジメントの進化を通じ、**研究・開発から事業化までNEDOならではの支援を途切れなく提供**することにより、**唯一無二のファンディング・エージェンシー**を目指す。
- ・航空・宇宙部としても、「福島イノベーション・コースト構想を基軸とした産業発展の青写真」の実現に向け、**イノベーション・アクセラレーターとして福島**の創造的復興を推進。



出典：プロジェクトマネジメントの進化に向けて（2026年2月19日 NEDO）

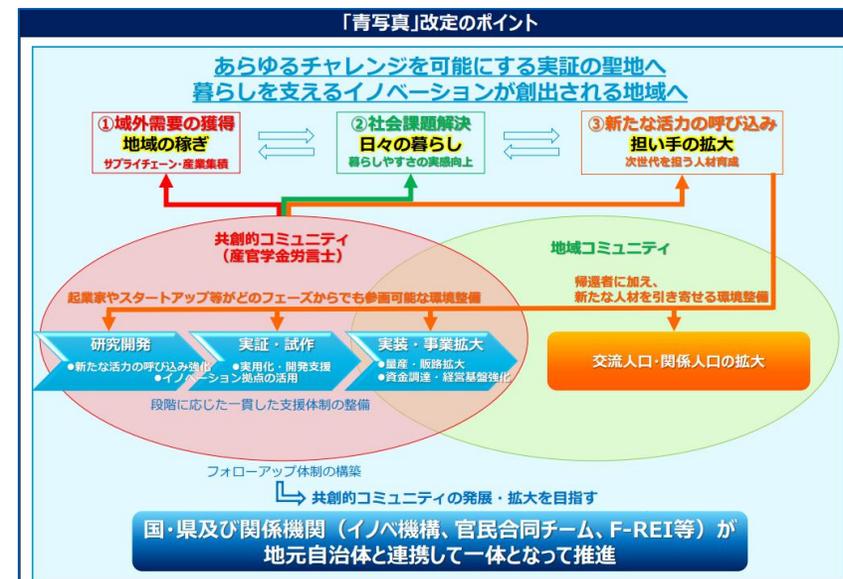
NEDO によるプロジェクトマネジメントの進化に向けて

2026年 2月
国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構

1. はじめに

(1) 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構法 (NEDO 法) において、NEDO の目的は、
「非化石エネルギー、可燃性天然ガス及び石炭に関する技術並びにエネルギー使用合理化のための技術並びに鉱工業の技術に関し、民間の能力を活用して行う研究開発、民間において行われる研究開発の促進、これらの技術の利用の促進等の業務を国際的に協調しつつ総合的に行うことにより、産業技術の向上及びその企業化の促進を図り、もって内外の経済的社会的環境に応じたエネルギーの安定的かつ効率的な供給の確保並びに経済及び産業の発展に資すること(第4条)」と規定されている。

(2) NEDO の任務(ミッション)は、事業化・社会実装すれば付加価値の向上を通じて日本経済の発展に貢献すると期待される技術について、それらを開発する企業や大学・研究機関からの情報収集・調査をつぶさに行い、また、経済産業省など政府が策定する政策プログラムを踏まえ、公的支援の意義・必要性がある課題と研究開発体制を募るプロジェクトを企画立案し、企業や大学・研究機関から応募された案件から支援対象を採択した上で、開発の推進完了、さらにその事業化まで支援することである。NEDO 法第4条に列記されるように、具体的な支援は、委託などの契約により行われる民間の能力を活用した研究開発、補助金などの交付による民間において行われる研究開発の促進、これらの技術の利用の促進等をそれぞれ、案件によってはこれらを組み合わせで行われる。



出典：福島イノベーション・コースト構想を基軸とした産業発展の青写真の改定について（2025年5月30日 復興庁・経済産業省・福島県）